

井手町地域創生推進室

令和3年度

地方創生関係交付金 事業評価調書

目次

＜地方創生推進交付金＞

1. 企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業・・・P 2
2. あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を
～みんなが主役の地域振興事業～・・・P 6
3. 京都やましろ地域×東京しぶや連携
～和文化×多文化 関係人口創出プロジェクト～・・・P 10

＜地方創生整備推進交付金＞

1. ～自然と共に生きる井手の里山～周遊観光ルート整備創生計画・・・P 14

1. 企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業 (地方創生推進交付金)

交付対象事業名：企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業

事業額：2,446,785円 交付金充当額：1,222,892円 (補助率1/2)

事業内容

1. 空き家を活用した京都産業大学井手応援隊活動拠点事業【実績額：966,528円】(地域創生推進室)

① 京都産業大学井手応援隊活動拠点「むすび家ide」運営事業【実績額：461,785円】

年間を通じた施設の休館に伴い、予定していた町内小学校の児童を対象とした寺子屋や町屋カフェも未実施となった。一方、空き家の賃借は継続し、定期的に敷地内の草刈り等を行うとともに、リモートでの事業実施について検討を進めた。

② 学生による地域課題解決支援事業【実績額：500,000円】

「井手！みねーしょん」や「はらペコランド」といったイベントは中止。町内の関係団体等から課題を聴き、学生達の視点で課題解決の方策を提案し実施する「井手町版キャップストーンプログラム」については、井手やまぶき支援学校からの依頼により、町民と新たに井手やまぶき支援学校に通う予定の児童生徒・保護者との相互理解や今後の交流・連携の促進に寄与する動画の制作に取り組んだ。

2. 地域課題解決に取り組むまちづくり団体の活動拠点運営及び団体活動支援事業【実績額：1,485,000円】

(地域創生推進室)

井手町まちづくり協議会に対する「井手町まちづくりセンター椿坂」の運営費用の支援を通じ、地域おこし協力隊とともに、地域の交流の促進や新たな魅力づくり及び情報発信に努めた。



学生による町内での撮影の様子



学校内覧会での動画お披露目会



ブラスト機を使用したお土産づくり



ピザ窯のづくりの様子

1. 企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業 (地方創生推進交付金)

KPI (府全域)

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前		本事業終了時の目標値		令和3年度の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月
本事業の取組によるサテライトオフィスの誘致件数 (件/年間)	0	H29.3	29	R4.3	5	R4.3
本事業の取組により田舎の地域で就職した者数 (人/年間)	93	H29.3	148	R4.3	100	R4.3
本事業の取組により大学等と連携した地域課題解決のためのフィールドワークに参加した学生数 (人/年間)	5,181	H29.3	6,580	R4.3	5,977	R4.3

(参考値) 井手町における各KPIの状況 (R3年度)

- ・ 本事業の取組によるサテライトオフィスの誘致件数 (件/年間) … 0
- ・ 本事業の取組により田舎の地域で就職した者数 (人/年間) … 0 (H28~R2: 累計2人)
- ・ 本事業の取組により大学等と連携した地域課題解決のためのフィールドワークに参加した学生数 (人/年間) … 15

1. 企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業（地方創生推進交付金）

事業の効果

- 「むすび家ide」は、新型コロナウイルスにより、京都産業大学井手応援隊の学生の頻繁な町への訪問が困難であったことから、年間を通じて休館。当初予定していた地域交流や賑わいづくりを目的とした寺子屋や町家カフェも未実施となった。一方、施設の賃借、維持管理は継続。今後しばらくコロナが収束しないことを見込み、リモートでの事業実施についても検討を進めた。
- 「井手！みねーしょん」等の秋のイベントについても、新型コロナ拡大の影響を受け中止。一方、町内の関係団体等から寄せられた課題について、解決策の検討や提案、実践までを学生が行う「井手町版キャップストーンプログラム」については、井手やまぶき支援学校からの依頼により、町民と新たに井手やまぶき支援学校に通う予定の児童生徒・保護者との相互理解や今後の交流・連携の促進に寄与する動画の制作に取り組んだ。制作した動画は、支援学校で開催された保護者説明会や学校内覧会でお披露目し、動画を見た保護者からは「新しい学校に行かせるのに不安があったが、井手町の方々に歓迎していただいていると分かり楽しみになりました。」「動画を通して井手町に住む方々の温かさがとてもよく伝わってきました。」等の声が多数寄せられ、町の魅力発信に貢献した。
- 井手町まちづくりセンター椿坂も、新型コロナの影響により、年間を通じて休館。一方、椿坂周辺農地で栽培した作物を使った特産品づくりやサンドブラストを活かしたグラス等のお土産品の試作、玉川堤や椿坂周辺への山吹の補植に重点を置いて取り組み、コロナ収束後に再び多くの方に井手町を訪れてみたいと思ってもらうための新たな魅力づくりや地域資源の磨き上げに貢献した。（完成したグラス等は町のふるさと納税返礼品に登録済）

今後の展開

- 新型コロナの収束が見通せない中、令和4年度より、オンライン等を活用し、むすび家での井手応援隊の学生による寺子屋事業を再開。飲食を伴う事業の再開時期については慎重に検討していく必要があるが、withコロナの考え方のもと、むすび家での各種企画の実施や地域イベントへの参画など、引き続き学生の主体的な活動を支援していく。
- 「井手！みねーしょん」等の秋のイベントについては、新型コロナの感染拡大状況を踏まえ、現地開催は行わない方針。一方、オンライン等の活用により、井手町の魅力発信や活性化に寄与する新たな企画を実施方法も含め検討中。
- まちづくりセンター椿坂は、開館日数の縮小、サービス内容を一部制限したうえで、令和4年6月より開館再開。今後、コロナの感染拡大状況を見てサービス内容の拡充についても検討していく予定。また、市町村間の大きな移動を伴わない、町内の子どもを対象とした椿坂での体験企画等を中心に実施を検討しているところ。
昨年に引き続き、コロナ収束後を見据え、食品や工芸品等のお土産品の開発や椿坂周辺への花等の補植など、コロナ禍でも実施可能な地域の新たな魅力づくりにも取り組む予定。

井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	3
どちらかといえば有効であった	3
どちらともいえない	3
どちらかといえば有効とはいえない	1
有効とはいえない	0

委員の主なコメント

- コロナの影響により厳しい結果となっているが、その中でも可能な活動を積極的に展開している。（学識経験者、金融機関）
- コロナ禍なので、企業サテライトオフィスの誘致、空き家を利用した取り組が難しい中だったが、取組としては、有効であったと思う。コロナが収束したら、事業展開が増えると思う。（産業界）
- コロナの影響があったことは否めないが、数値的には厳しい評価をせざるを得ない。テレワークをする井手町居住者の増加を目標にするといった観点から、次の事業を検討してほしい（言論界）
- コロナがいつ収束するかわからないが、いつでも動き出せるように、準備（草刈り、清掃等）はお願いしたい。（産業界）
- まちづくりセンター椿坂のような、既存の観光施設を含めて、井手町内には多数点在している。このような観光施設を内外に発信し、PRをしてはどうか。（まちづくり団体）
- むすび家ideなど、学生の方々により、ひとつの空き家から地域が活性化されたと思う。学生による有効活用ではなく、空き家を使った在宅スペースなどがあれば、確かに助かったと思う。（子育てサークル）
- 京都産業大学の方が学校や保育園に来て、一緒に灯籠を作ったり、「井手みね—しょん」を見に集まったりと交流があって良かったと思う。（子育てサークル）

2. あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を～みんなが主役の地域振興事業～

(地方創生推進交付金)

交付対象事業名：あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を～みんなが主役の地域振興事業～

事業額：6,275,000円 交付金充当額：3,137,500円（補助率1/2）

事業内容

1. 山背古道観光推進事業【実績額：500,000円】（企画財政課）

山背古道とその沿線振興のため、予定していたウォーキングイベント（山背古道は一ふウォーク・とことんウォーク）は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、中止となった。一方、令和3年度からは、新たな事業展開として、山背古道PR活動や井手町多賀の茶園整備等を実施するお茶探検事業のほか、ウォーキングの新たな楽しみ方として、山背古道謎解きラリー事業を実施した。

2. お茶の京都DMO負担金【実績額：1,100,000円】（地域創生推進室・産業環境課）

地方創生加速化交付金により設立した「お茶の京都DMO」に分担金を支払い、広域・統一ブランディングでの観光・集客サービスの提供や地域資源を活用した取組の推進、地域づくりを支える人材育成事業等を実施した。
(井手町関係の主な取組内容)

① Youtube動画「お茶の京都DMOぶらり旅井手町編」の作成

お茶の京都DMO公式チャンネルにて、3本の動画を配信。

「①井手町の名人が作るこだわりの逸品」「②井手町の恵まれた大自然を満喫」「③井手町ぐるっとグル巡り」

②「南山城三十三所観音霊場ガイドブック」発行

地域の観光資源の掘り起こし・磨き上げの一環として、地域の観光ボランティアガイド等と連携し、井手町の地蔵禅院を含む、南山城地域の観音霊場スポットと地元ガイドがお勧めする各地域の見どころを掲載。

3. 「道の駅」的休憩施設開設準備事業【実績額：4,675,000円】（地域創生推進室）

国道24号線のバイパス新設工事に伴い、新山吹ふれあいセンター内に「地域振興交流拠点施設」（将来的に道の駅となる施設）を整備し、カフェや物販エリア、住民ギャラリー・交流スペースを設け、令和5年度からの開業を目指すこととしており、令和2年度より2カ年にわたって、地域の委員の方々と共にその具体的な内容の検討を重ねた。

2. あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を～みんなが主役の地域振興事業～

(地方創生推進交付金)

KPI (府全域)

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前		本事業終了時の目標値		令和3年度の目標値		令和3年度の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
地域への移住者、地域活動にかかわった地域外の人 の延べ人数 (人)	704	R3.3	1,114	R8.3	754	R4.3	758	R4.3
地域での新規就職者数 (人)	1,053	R3.3	1,553	R8.3	1,153	R4.3	924	R4.3
本事業により空き家等を 活用して交流を行う拠点数 (箇所)	0	R3.3	15	R8.3	0	R4.3	2	R4.3
地域の一人当たり所得向上 額 (千円)	3.6	R3.3	363.6	R8.3	53.6	R4.3	74	R4.3

2. あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らしを」～みんなが主役の地域振興事業～

(地方創生推進交付金)

事業の効果

- 新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、実施予定であった山背古道は～ふウオーク及びとことんウォーキングは中止となった。一方で、令和3年度からは新たな事業として、山背古道探検隊に「山背古道探検隊プロジェクト」を委託し、イベントでの山背古道PR活動や、井手町多賀の茶園などにて茶園整備、茶葉の収穫・加工などを実施する「お茶探検事業」等を通じ、山背古道の魅力を発信した。また、能動的にまちの魅力を発見・体感することができ、ウォーキングを違った角度から楽しんで頂ける謎解きラリー用の謎解きキットを900セット作成、山背古道の魅力向上に寄与した。
- お茶の京都DMOとの連携事業において、井手町の観光スポットを巡り、おいしいグルメやお得な情報を発信する動画を3本作成し、お茶の京都Youtube公式チャンネルで配信することで、井手町の観光地情報の周知が図られた。
- 「道の駅」的休憩施設開設準備事業においては、本町に相応しい道の駅の機能や役割、コンセプト案等、全体的な方向性について検討会委員の皆様と協議した令和2年度の内容を踏まえ、令和3年度においては、個別具体的な検討に入るため、関係課を交えた協議を重ねるとともに、検討会委員の皆様と共に、事業者への意向調査結果や公募スケジュール等を共有し、指定管理候補者選定に向けた準備を行い、令和5年度に滞りない開業が迎えられるよう準備を進めた。

今後の展開

- 今後、整備される「道の駅」での販売やふるさと納税の返礼品づくりのため、食を中心とした特産品開発事業について、本交付金を活用して実施するとともに、本町の地域振興交流拠点施設で必要な設備等を整備し、町内外から沢山の方が訪れたいくなるような施設を目指し、令和5年度の開業に向け、更なる準備を進める。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、屋外でのウォーキングの需要は高まっており、今後も引き続き、謎解きキット作成などによる工夫を凝らした企画や、山背古道PR活動や講演会、学習会等を実施する「山背古道探検プロジェクト事業」などを通じ、山背古道の魅力周知を図る。

井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	2
どちらかといえば有効であった	4
どちらともいえない	4
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

委員の主なコメント

- 密を避けた取組に工夫が見られ、評価できる。（学識経験者）
- 井手町の特産品開発に向け、お茶の京都DMOを使って、意見交換していただきたい。（行政機関）
- PR活動により、集客を図っていただきたい。（金融機関）
- 道の駅について、生産者（農業）と商工会の連携と町住民へのPR活動を推進していただきたい。（産業界）
- お茶探検事業を通じ、山背古道の魅力を発信できたのは、良かった。お茶の京都DMOとの連携事業において、井手町の観光スポットを巡り、情報発信する動画が、お茶の京都Youtube公式チャンネルで配信したのは良かった。（産業界）
- 今後の期待につながる内容だったと思う。（言論界）
- 道の駅に井手町特産品（柿、みかん、お茶、竹の子）を置き、販売していくのはどうか。井手町を通り過ぎるだけでなく、立ち寄っていただけるよう、交流人口増加に繋がれたらと思う。（まちづくり団体）
- 山背古道探検隊プロジェクトは楽しそうな事業だと思った。初めて知ったので、もっと周知されれば良いと思う。道の駅に子どもたちが喜ぶような遊具を設置してほしい。山背ウォーキングなどは、体力向上にもつながり良かった。（子育てサークル）

3. 京都やましろ地域×東京しぶや連携 ～和 cultura × 多文化関係人口創出プロジェクト～ (地方創生推進交付金)

交付対象事業名：京都やましろ地域×東京しぶや連携～和 cultura × 多文化関係人口創出プロジェクト～

事業額：270,000円 交付金充当額：135,000円（補助率1／2）

事業内容

井手町を含む京都府山城地域（5市6町1村）と東京都渋谷区が連携し、両地域における人や企業の交流を促進させるプロジェクトを実施し、地方と都市がともに発展・成長するような新しい関係づくり及び「関係人口」の創出拡大を目指す。

計画期間：令和2年4月1日から令和5年3月31日まで（3か年度）

お茶の京都・東京しぶや戦略的交流事業

戦略的・効果的な事業展開を目指すため、民間委員及び京都府山城地域と東京渋谷区の各自治体職員等からなる交流戦略委員会を設置、コロナ禍においても実施可能な新たな連携事業の提案、事業効果の検証や改善方法を検討するため、交流戦略委員会を年3回を実施するほか、ワーキンググループや実務担当者会議を開催した。また、取組全体を発信するためのポータルサイトを開設、両地域の位置や概要、特産品や歴史等に関する情報を発信するほか、本プロジェクトの「東京の資源を活用した京都の茶文化進化学業」や「京都の資源を活用した渋谷カルチャー進化学業」の周知を図った。

・東京の資源を活用した京都の茶文化進化学業

東京都渋谷区にある飲食施設「渋谷横丁」内で、京都やましろ産品を活用したメニューの提供や、山城地域のお茶の淹れ方・飲み方を来場者に実演。また、山城地域の特産品を活用した特産品メニュー開発事業を実施。

・京都の資源を活用した渋谷カルチャー進化学業

山城地域12市町村と東京都渋谷区在住・在勤の視聴者が相互に交流するオンラインツアーを実施。

3. 京都やましろ地域×東京しぶや連携

～和文化×多文化関係人口創出プロジェクト事業(地方創生推進交付金)

KPI (山城全域)

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前		本事業終了時の目標値		令和3年度の目標値		令和3年度の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
観光消費額(億円) ※1	2,459	R2.3	2,915	R5.3	2,795	R4.3	789	R4.3
両地域において企業等が連携して開発したプログラム、商品の件数(件) ※2	0	R2.3	3	R5.3	2	R4.3	0	R4.3
両地域の連携事業へ参画した個人のうち継続して参加意欲がある人数(人) ※3	0	R2.3	150	R5.3	100	R4.3	278	R4.3
イベント参加者へのアンケートによりやましろ地域と渋谷区の連携が大切とする住民の割合(%) ※4	23.0	R2.3	38.0	R5.3	33.0	R4.3	70.76	R4.3

※1 山城地域の額、渋谷区の額の合計額を設定(山城地域の額は、京都府観光入込客調査報告書により算出。渋谷区は、公的な統計で算出されていないため、東京都全体の観光消費額を母数とし、東京都全体の滞在者数のうち、渋谷区の滞在者数が占める割合を掛けて推計したもの。)

※2 緊急事態宣言の影響により、実施時期が遅れたため、令和3年度の実績値は「0」となった。

※3 「近畿食市」「お茶のブレンド試食者」を対象にしたアンケートの結果を使用。

※4 「近畿食市」「お茶のブレンド試食者」を対象にアンケートを実施し、「両地域における連携が大事」と回答した渋谷区住民の割合。

3. 京都やましろ地域×東京しぶや連携

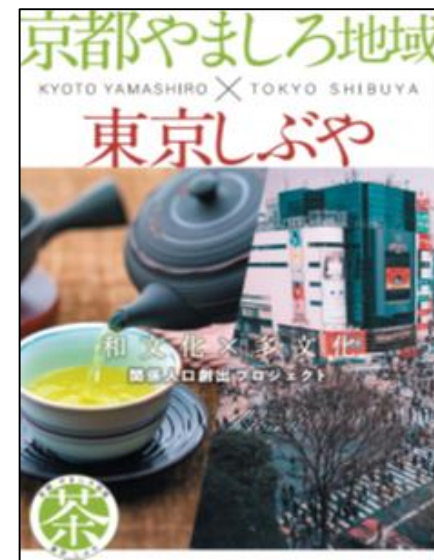
～和文化×多文化関係人口創出プロジェクト事業(地方創生推進交付金)

事業の効果

- 緊急事態宣言が終了した時期以降を中心として、令和2年度に取り組んだデジタルやオンライン化手法を更に充実させ、当初予定した事業内容を実現するよう取り組んだ。このことにより、新型コロナウイルス感染症の動向が懸念される状況においても、両地域の交流を促進することができた。
- 渋谷区の飲食スペースにおいて、「京都やましろ食材フェア」を開催し、山城地域の産品を活かしたメニューを来場者に提供するとともに、山城地域のお茶を訪問者に試食していただき、淹れ方・楽しみ方のレクチャー等を行い、山城地域の魅力をPRした。また、渋谷区在住・在勤者を対象とした、やましろ地域の各所を巡る双方向での交流が可能なオンライン交流ツアーを実施し、特産品プレゼント企画も同時に行うなど、コロナ収束後に再び、実際に山城地域に足を運んでもらうことを目指し、オンラインを活用した事業展開を図った。

今後の展開

- コロナ収束を見据え、当初、計画していた「リアルな交流」の展開とともに、これまでに培ったデジタル化手法などを有効活用し、リアルとオンラインを融合させた事業を実施し、一過性ではなく、「深い交流」が生まれ、地方と都市がともに発展・成長する新しい関係づくりを進める。
- 今後、渋谷区のイベントスペース等を活用し、山城地域のお茶の魅力や地域の特産品をPRするほか、山城地域と東京渋谷区の子どもたちの交流事業を展開するなど、両地域の住民や事業者が参加できる機会の拡大、関係者間のコミュニケーションの充実を目指す。



京都やましろ地域×東京しぶや連携
パンフレット



オンライン交流ツアー
観光農園「みどり農園」のPR及びみ
どり農園で収穫されたしいたけの
プレゼント企画を実施

井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	0
どちらかといえば有効であった	4
どちらともいえない	4
どちらかといえば有効とはいえない	1
有効とはいえない	1

委員の主なコメント

- コロナ禍であったので、積極的なPR活動はできなかったと思うが、DMOと連携したPR方向を検討してはどうか。（行政機関）
- できるだけ多くの人に参加いただきたい。（金融機関）
- 京都市以外の山城地域の良さを、東京渋谷区の区民さんに情報共有出来て良かったと思う。パンフレットの増刷ができればもっともっとPRが出来たのではないかと思う。（産業界）
- 井手町のPRが弱い。他の地域の人から見て、井手町はこれが名産だというのを作らないと、色々な物を取りあげると弱くなると思う。（産業界）
- 山城地域の文化をつくっているのは、在住、在勤者だが、渋谷区側でも同様なのだろうか。ベクトルのずれをいささか感じる。連携を求める相手は、「区」（行政機関）なのだろうか。（言論界）
- 山城地域と東京（渋谷）の交流人口の増加のためにも連携は大切である。（まちづくり団体）
- もう少し多くの方の目にとまる様にしていた方が良いのではないか。山城地域と東京渋谷区の子どもの交流とありましたので、何かされる時は参加してみたい。（子育てサークル）
- 渋谷区の人に知ってもらって、どうしたのかかわからない。フットワークが軽い高校生や大学生への周知が必要だったのでは。（子育てサークル）

1. ～自然と共に生きる井手の里山～周遊観光ルート整備創生計画

(地方創生整備推進交付金)

交付対象事業名：～自然と共に生きる井手の里山～周遊観光ルート整備創生計画

令和3年度事業額：7,494,300円 交付金充当額：3,747,150円(補助率1/2)

事業内容

井手町では、収穫体験が楽しめる体験型観光農園やアウトドア体験ができ、宿泊も楽しめる大正池グリーンパークなどがあるが、町域に観光・交流拠点が点在しており、これらを結ぶ道路網が十分に整備されておらず、周遊性に乏しいことが課題であった。

今後、整備される国道24号城陽井手木津川バイパスを縦の周遊・流通の軸とし、本事業において整備する町道及び林道により横の道路ネットワークを構築することで、井手町の豊かな自然の魅力を感じていただける周遊ルートの整備を行うとともに、各施設の連携を強め地域産業の基盤強化を図る。

計画期間：令和3年度から令和7年度まで（5か年度）

地方創生整備推進交付金（道の整備事業）

町道 2,7km、林道2,8km 総事業費 645百万円

町道 605百万円（うち国費 302.5百万円）、林道 40百万円（うち国費 12百万円）

整備予定の路線名

- ①町道12号線ほか3線 道路改良（建設課）
- ②町道34号線ほか1線 道路改良（建設課）
- ③町道49号線 道路改良（建設課）
- ④林道片原山線 舗装改良（産業環境課）

1. ～自然と共に生きる井手の里山～周遊観光ルート整備創生計画

(地方創生整備推進交付金)

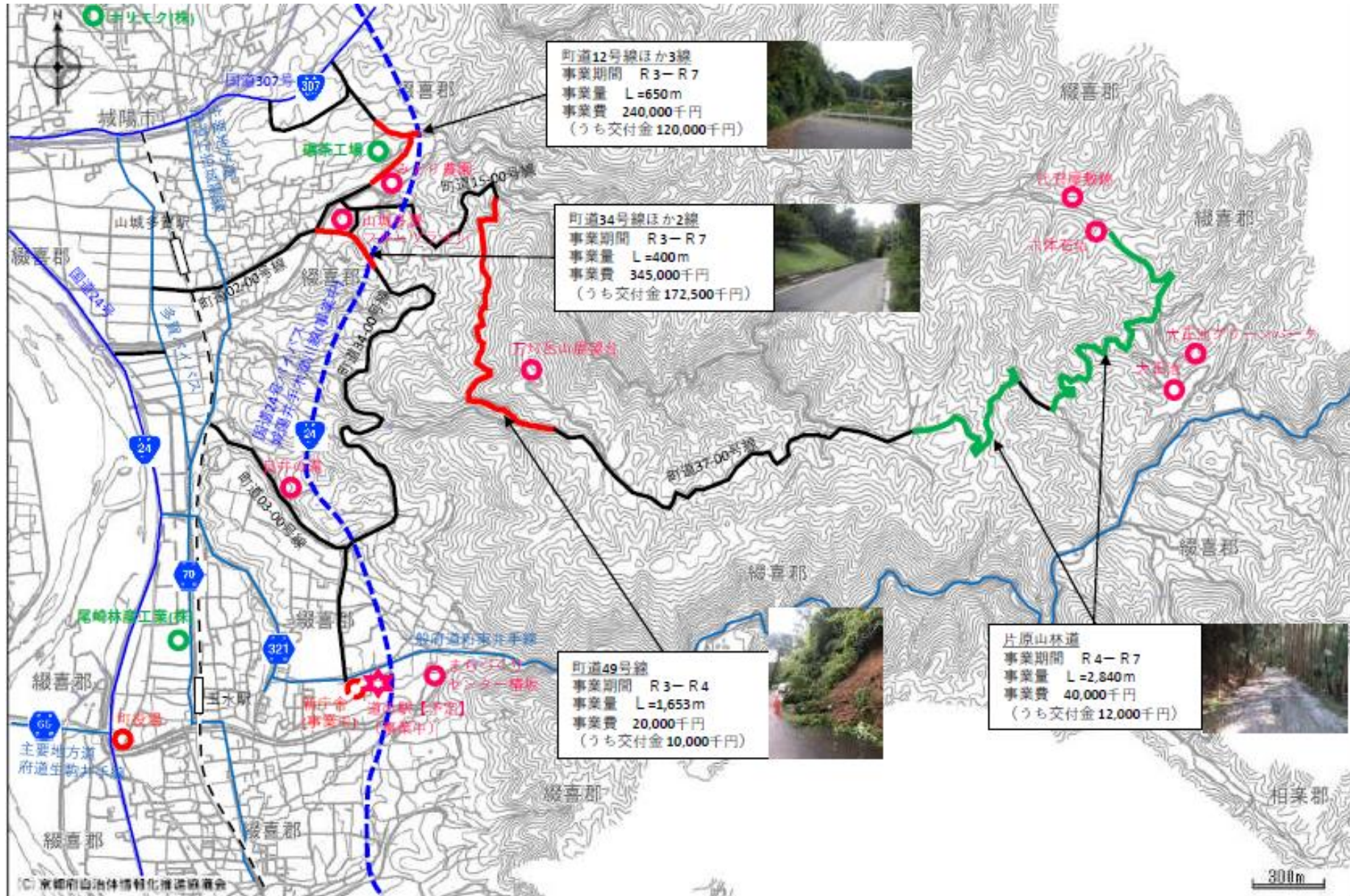
KPI (井手町)

本事業における重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前		本事業終了時の目標値		令和3年度の目標値		令和3年度の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
指標1 観光地等間のアクセス改善 森林整備の効率								
大正池～展望台～観光農園 ～道の駅(分)	46	R3.3	41	R8.3	46	R4.3	46	R4.3
六体石仏～木材加工場 (分)	47	R3.3	34	R8.3	47	R4.3	47	R4.3
指標2 観光交流の活性化								
道の駅の年間来場者数(万人)	0	R3.3	15	R8.3	0	R4.3	0	R4.3

事業の効果と今後の展開

- 町道については、令和3年度に調査測量に着手し、令和4年度は引き続き調査設計と用地補償の準備を進めるとともに、一部工事に着手予定。令和5年度は用地補償に着手し、更に工事を進める予定である。
- 林道については、令和3年度の府の緊急整備で一部整備されたため、計画を見直す必要が生じている。

整備する施設の整備区域又は整備箇所を示した図面



井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	3
どちらかといえば有効であった	0
どちらともいえない	7
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

委員の主なコメント

- 城陽井手木津川バイパスの整備の遅れの影響があり、評価は難しい。（学識経験者）
- 令和3年度は、測量・設計のみとのことであり、KPI達成に有効かどうかは現時点では判断できない（行政機関）
- 早期整備に向け、頑張っていたきたい。（言論界）
- 企画効果がわからない。引き続き町道整備をお願いしたい。国道24号線に繋がる道の整備等の予算をもっと増やしてほしい。（産業界）
- 評価できる材料がない。（言論界）
- 倒竹していて、通りにくい箇所があるため、万灯呂山展望台へのルート（町道）の整備は是非やっていただきたい。（まちづくり団体）
- 道路が整備され、井手町の色々な所で遊ぶ事ができれば、周りの地域からも人が来てくれると思う。（子育てサークル）
- 今後の計画が予定通りに進むことを期待して、井手町のせっかくの観光スポットをより多くの町外の方々に知ってほしい。併せて、子育て世帯が井手町に移住してもらえるよう、観光ルート周辺施設も整備してもらいたい。なるべく早く進めて周知をお願いしたい。（子育てサークル）